

学校だより **本荘** 2023 *Smile*

令和5年度 第41号
令和6年1月9日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

あけましておめでとうございます。始業式は心が引き締まる話をしました。



あけましておめでとうございます。今日から新学期です。本年もよろしくお願い致します。

しかし、世の中は、大変でしたね。能登半島地震が起ったり、空港で大きな事故があったりとお正月からつらい思いをしている方々もいました。平和な毎日の大切さを感じたお正月だったような気がします。日程的にもゆとりのある冬休みになっていましたので、ご家庭であたたかな時間を過ごしたご家庭も多かったのではないのでしょうか。しかし、何か起こるかわからない世の中です。新学期も職員一同、気を引き締めて、子どもたちの安全・安心に留意していこうと思います。本校教育活動へのご理解、協力よろしくお願い致します。

3学期の始業式では、心が引き締まるお話をしました。それは、「厳しさ」と「教えてもらう力」についてです。「厳しい指導」と聞くと、なかなかよいイメージは持てないでしょう。教育現場でも、理不尽で感情的な「厳しさ」、不適切な指導につながる「厳しさ」は、断じてあってはならないと考えます。当然です。

しかし、厳しく指導をしなければならぬことがあることも事実でしょう。これは、学校だけでなく、大人の職場や家族間でも言えることだと思います。大切なのは、「厳しさ」があっても、相手のことを大切に思うことや相手の成長のためであることを忘れてはならないということです。

でも、子どもたちにとっては、厳しくされることはうれしいことではありません。厳しく指導された経験が少ない子どもたちにとっては、落ち込むことの方が多いでしょう。しかし、厳しいからこそ価値があることも確かです。世の中を生きていくためには、「厳しさ」を乗り越えることも必要であると思って講話をしました。

将棋のお話です。将棋は大体、実力差が大きい場合は「駒を落とす」ということをします。持ち駒を減らすことでハンディキャップをつけるのです。よく「飛車、角落ち」と言われますよね。強い駒の代表である「飛車」と「角」を使わないで対戦する場合です。まあ、それでも強い人には勝てないのですけどね(笑)。講話の中でも語っていますが、私の父は将棋が強く、ご近所では有名でした。父に教えてもらったのですが、全く勝てなかったことを覚えています。(勝てなかったどころか、強くもなれなかったのですけど 笑)

このお話に出てくる将棋の先生は、6枚落としても勝てる子どもに、2枚しか落とさなかったのだそうです。当然、子どもは、連戦連敗です。面白くないので「6枚落として!」と先生に懇願するのですが、先生は、ピシッと「勝ち負けの問題ではなく、相手の打ち手を考えなさい!」と指導するのです。自分が打った手に相手はどう反応するのか、それを勉強することが大事なのだと伝えるのです。

一見すると、意地悪な先生の行動ですが、相手に成長してほしいという願いが込められている行動なのです。その証拠に、「君は将棋の才能があるのだから、勝ち負けにこだわらなくていい。自分がどのように差したら、相手はどうするのかということをよく見て勉強しなさい!!」と指導しています。ちゃんとその子どもの才能を見抜いていたからこそ、厳しい指導だったのでしょう。教える相手の才能を見抜くことも指導するうえでは大事なことです。

先生の「厳しさ」を理解し、「これは、自分の才能を伸ばそうとしてくれてんだ」「自分には才能があることを先生はわかっているのだ。」と考えることが重要です。これこそが「教えてもらう力」なのです。オリンピック選手や有名な科学者になった方々は、「厳しさ」を乗り越えてきた人が多いということももうなすけますね。

変化の激しい社会を生き抜いていくためには、自分を厳しく見つめ、向上心をもって取り組むことが、子どもたちには必要であると考えます。だからこそこの校長講話でした。(裏面に続きます)

また、3学期は「0学期」であることも伝えていきます。今の学年のまとめの時期だけでなく、次の学年の準備をする時期でもあります。最後に、厳しい冬を乗り越えるため植物たちが、じっと春を待っている様子も見せています。ご家庭でも、「厳しさ」について語り合っただければと思います。

「いく1月」「にげる2月」「さる3月」というように、3学期はあっという間に過ぎていきます。よろしくお願い致します。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「始業式の話全文 厳しさと教えてもらう力」

学校朝会の全文です。ご家族でお読みください。

令和5年度 3学期始業式「厳しさと教えてもらう力」

みなさんおはようございます。今日は、明るい挨拶と笑顔で、家を出ることができましたか？冬休みの間、校長先生が言ったように、伝統と文化を大切に、家の手伝いや他の人のためになることはできましたか？ついに3学期が始まりました。校長先生も、この冬休みはしっかりと休むことができました。みなさんもそうでしょう。だから、今日の校長先生のお話は、少し緩んだ心と体をピシッと引き締めるお話をしようと思います。(笑)

本荘小に来て3回目の初日の出です。きれいでしょ。この日は天気もよく、暖かだったので、すごくよい気分で写真を撮ることができました。でも、厳しい寒さの中で撮った写真というものも価値があるのものです。これは日の出の30分前です。この時はまだ寒かったのですよ。厳しいからこそ価値がある。そんなことが世の中では大切なのです。

みなさんは、担任の先生や、習い事の先生、スポーツクラブのコーチに厳しい指導を受けたことがありますか？(子どもたちに聞いてみました。)

みんな、がんばっているんだね。そうか、校長先生も、子どものころ、厳しく指導されたことがたくさんあります。でも、厳しくされたから今この場所にいます。

ところで、コーチや先生方って、みなさんが憎らしいから厳しくしているのですかね？違いますよね。みんなにもっと上手になってもらいたかったり、みんなのことがかわいいから、もっといい子に育てほしいと思ったりするから厳しくするのだと思いますよ。

でも、あんまり厳しくされるとよい気持ちにはならないことも事実です。がっかりしたり、落ち込んでしまったりするでしょう。でも、そんな時に、指導してくださる方の気持ちや自分が「なぜ」厳しくされているのかの「わけ」を考えることができると、もっとよりよい自分になれるのではないかと思います。

こんな話があります。みなさんは、「将棋」って知っていますか？例えば、この人。見たことがある？藤井聡太8冠っていった有名なんだよね。この方、将棋の8段、すごい人なのです。その「将棋」です。

みなさんは、将棋をしたことはあるのかな？校長先生は、お父さんから習いました。校長先生のお父さんは、近所では一番強くて、よく将棋をしてお客さんが来ていました。初段ぐらいって言っていましたね。校長先生は、お父さんみたいに強くなれなかったけれどもね。

将棋を初めて習う時は、自分より強い人から教わるのだけれども、普通にやったら全然敵わないので、強い人が自分の持ち駒を減らして対戦するんです。力の差が大きいほど、相手よりも少ない数の駒で戦うのです。

あるところに、大変将棋が強い方がいました。その人が、まだ将棋を習い始めた時には、とても強い先生がいて、駒を6枚も減らしてもらっても、全然勝てなかったそうです。

それなのに、先生と練習する時は、先生は2枚しか減らしてくれません。6枚減らしても勝てないのですから、勝てるわけがありません。しかも、負けた後でどこがダメなのかを、それこそ厳しく指導されたのだそうです。

悔しかったその人は、ある時「いつものように2枚でなく、6枚減らして戦ってほしいです。そうしないと勝てないです!!」とお願いしたそうです。

すると、その先生は、「君は将棋の才能があるのだから、勝ち負けにこだわるのではなく、自分がどのように差したら、相手はどうするのかということをよく見て勉強しなさい!!」と言われたのだそうです。その人は、何も言い返すことができなかったということです。先生は、その人のためを思って、手を抜かずに真剣に勝負していたのですよね。校長先生は、似たようなお話を、テニスや卓球をやっていた人からも聞きました。

みなさんも、勉強やスポーツ、習い事の中で、1回や2回は「ちえっ、練習が厳しくていやだなあ」とか「先生、厳しすぎだよ」と思ったことがあるかもせれませんね。

でも、あなた方のことを大事に思ってくれる先生やコーチは、みんなにある才能を伸ばそうとして厳しくしているのでしょうね。だから、もし「厳しい、特訓だなあ」「鬼コーチだな」と思うことがあった時には、「これは、自分の才能を伸ばそうとしてくれてんだ」「自分には才能があることを先生はわかっているのだ。」と思うことが大事なのです。

これこそが「教えてもらう力」なのです。当然、「教えてもらう力」が高い人はどんどん伸びていきます。オリンピック選手や有名な科学者になった方々も「教えてもらう力」が高かったのでしょうね。みなさんも3学期は「教えてもらう力」をどんどん発揮して自分の才能を伸ばしてほしいと思います。

なにしろ、3学期は、次の学年の「0学期」になるのです。今の学年のまとめだけでなく、4月からの新しい学年の準備もしなければなりません。みなさんには頑張ってもらいたいと思います。

この写真は、近所の公園の植物の様子です。厳しい冬を乗り越えるため、きれいな葉っぱを落とし、静かにじっと春を待っています。でも、春になったらきっと緑の葉を伸ばし、きれいな花も咲かせることでしょう。今日のお話につながる部分がありますよ。

今日は、「厳しく」という心と体が引き締まるお話をしました。この寒い冬を乗り切るためにも、1月も思いやりの心で笑顔の本荘小にしましょう。これでお話を終わります。